



本日はよくお参り下さいました

境内にも桜が咲く季節になりました。皆様におかれましては、希望にあふれる輝かしい春をお迎えのことと存じます。さて、先月鶴岡八幡宮で女子神職会の研修会が行われ、関東近辺から70名程の女性の神職さんが集まり、有意義な時間を過ごさせて頂きました。講師は『女子の武士道』の作者、石川真理子氏でした。お話の内容は、女性らしくしなやかに、しっかりと生きることについてのお話でした。また宮司の吉田茂穂氏のお話もありました。20年程前に開催された秋田県のみまち坂恋文コンテストで受賞した柳原タケさん(当時80歳)の紹介とともに、タケさんの手紙を朗読されました。新婚の時期にタケさんと3歳になる娘を残してご英霊となったご主人に、「あれから半世紀以上たった今何をしていますか?」というところから始まり、もしもまた会えたなら、聞いてほしいこと、一緒にしてみたいことなどが綴られているのですが、タケさんの気持ちと読み手の気持ちが重なるような素晴らしい文章でした。本文はインターネットで「天国のあなたへ」で検索すると出てきますのでご興味のある方はご覧になってみて下さい。今月も皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。権禰宜道子



4月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の永遠と国家の発展、氏子・崇敬者並びに社会の幸福と平和を祈ります。

4日 清明(せいめい) 清明は「清浄明潔」を略したもので、「万物ここに至って皆潔斎なり」と称されるように、春先の清らかで生き生きとした様子をいったものです。この頃になると、春気玲瓏(れいろう)にして、桜や草木の花が咲き始め、万物に晴朗の気があふれてきます。

20日 穀雨(こくう) 百穀を潤す春雨をいいます。この頃は、春雨のけむるがごとく降る日が多くなり、田畑を潤して穀物などの種子の生長を助けるので、種まきの好機をもたらします。春の季節の最後の二十四節気。

29日 昭和の日 昭和天皇のお誕生日です。昭和の時代にあったできごとを忘れないよう制定されました。

お花見の起源…古代から田の神様を「サ神様」といい、桜の開花はサ神様の降臨された合図と考えられていました。そのサ神様に供えたお下がりを戴くことが、日本の農村のお花見の起源と言われています。桜はサ座(くら)・早苗はサ苗・早乙女はサ乙女が語源と考えることができます。



天神さまの豆知識  
— 五穀の起源 —

生きていくために必要な食物、特に栽培を必要とする穀物がどのようにして人間の手に入るようになったのでしょうか。▼スサノオノミコト(以下スサノオ)は高天原から追い払われ、まずイザナギノミコトと、イザナミノミコトの子である大気津比売神(以下オオゲツヒメ)という食物の神に、食べ物をもらいに行きます。ところが、オオゲツヒメは目や口、鼻や口、さらには尻からさまざまに食べ物を出し、調理し、もてなしてくれました。スサノオは「何と汚いことをして食べさせるのだ」と思い、オオゲツヒメを殺してしまいました。すると殺されたオオゲツヒメの頭には蚕が、田には稲種が、耳には粟が、鼻には小豆が、陰部には麦が、尻には大豆がなりました。そこでカミムスビの神はこれらをとって種としました。▼女神を殺害することによって穀物が発生するというのは、残酷に見えるかもしれませんが「母なる大地」といわれるように、人間はあらゆる食物を供給する大地に対して、子を産みだし、食べ物を与えて育てる母のイメージを抱いていました。そして人々はその母である大地に鍬や鋤を入れ、耕し、日々を糧を得てきました。このように考えると、穀物が女神を殺害することによって発生したことも納得できるのではないのでしょうか。参考『神社と神々』監修井上順孝



お祭り歳時記  
くらやみ祭

(四月三十日〜五月六日)

東京都府中市の大國魂

神社で行われる例大祭です。武蔵国の「国府祭(こくふさい)」を起源としており、東京都指定無形民俗文化財となっています。期間中は約七〇万人の人出で賑わいます。現在この府中の大國魂神社に奉職しております当天神社宮司の次女からの一言です。「くらやみ祭は古代の国府祭に由来する大変伝統のあるお祭りです。緑の多い町の中で、昔ながらの大規模なお祭りを楽しむことができます。ゴールデンウィークは是非くらやみ祭へ！」



美しい万灯

今月の言葉

『花は盛りに  
月は隈なきをのみ  
見るものかは』

(吉田兼好「徒然草」より)

人は、春に桜の花の盛りを、秋は雲に隠れていないときの月を愛でるものだが、美しいときとされるときだけ愛でて物事の断片だけしか見ない者に、本当の花の盛りの美しさ、月の輝きの美しさがわかるのだろうか。花の芽吹きから散りゆくさままでを見てこそ、その美しさと儂さを知る。人も同じである。花にも、月にも、人にも、いろいろな時期があり、多様な姿がある。参考文献『神道のことば』武光 誠 監修 平成二十六年七月五日河出書房新社発行